

新聞を活用した主権者教育

指定校一年次 長野県長野西高等学校中条校 地歴公民科 田村 直洋

(1) 本校の新聞活用（NIE）の現状

本校は全校で80人、各学年1クラスずつの小規模校で、平成21年からは長野西高校の地域キャンパスなり、平成29年で9年目を迎える。小中学校の学び直しを行う科目「ベーシック」や、中条地区住民運動会全校参加などの地域との交流を大切にしている学校である。

小規模校なため地歴公民は一人で全学年の授業を担当しており、各学年の授業でそれぞれの科目の内容に合わせて新聞を活用することを計画した。また、長野市長選が10月に行われたので、全校で共通して取り組む新聞活用の例として主権者教育を実施した。

日頃から新聞を読んでいる生徒は多くなく、社会情勢やニュースも、テレビやインターネットなどで触れる程度である。

(2) 実践のねらい（育てたい力）

本校生徒の実態を踏まえ、以下の3点を設定した。

- ①新聞というメディアに触れさせる機会を設け、様々なメディアの中から情報を取捨選択する能力(メディアリテラシー)を養う。
- ②自身の望む社会をつくるための一手段としての選挙の役割を理解する。
- ③他者と意見を交わしていく中で、世の中には多様な考え方があることを理解し、そうした様々な意見や考え方をまとめて創り上げられるのが私たちの社会だと気づかせる。

(3) 研究の概要

①各学年の教室に新聞を配布

各学年に1部ずつ新聞を配布し、教室に常に新聞がある状況をつくった。また、各学年の地歴公民の授業（1年：現代社会、2年：世界史B、3年：日本史B）の際に、その日のニュースに触れるなどして、新聞を意識させるようにした。現代社会は世界情勢やニュースなどを毎回の授業の導入として話題にし、世界史B・日本史Bでは紙面のニュース・出来事の歴史的背景について触れるなどしてから授業を始めた（例：トランプ大統領がイエルサレムをイスラエルの首都と承認→イエルサレムが歴史的にどういう土地であるか）。

②地域史(3年選択)の授業での活用

学校設定科目として地域の歴史を研究する科目があり、各生徒の興味関心をもと

にレポート作成・プレゼンを行った。情報収集を行う際に、インターネットや書籍だけでなく、新聞を活用した。

③主権者教育(全校)

長野市長選が平成 29 年 10 月 29 日 (日) に実施されたことに合わせ、各候補者について調査・意見交換を行い、模擬投票と投票結果の考察を行った。

- i) **事前学習 1** : 民主主義制度や選挙制度、長野市の課題などを学ぶ。
 - ① 民主主義・選挙制度について
 - ② 長野市の課題や生徒の希望・要望→話し合い
- ii) **事前学習 2** : 市長選に向けて、各候補の政策や思いなどを新聞・インターネットなどを用いて調べる。
 - ③ 政策・思いなどについて調査・まとめ (インターネット)
 - ④ 政策・思いなどについて調査・まとめ (新聞&書籍)
 - ⑤ 発表・話し合い
 - ⑥ マニフェストスイッチの提示→話し合い・アンケート記入 (投票理由など)
- iii) **模擬投票** : 10/26 (木) 14:40~防災訓練終了後、体育館にて
 - ⑦ 振り返り : 本校の投票結果と、実際の投票結果を比較・検討する。各候補の当落のみならず、どういった観点で投票したか、どういった政策を重視したかなどを考察

日	時限	科目	学年	場所
9/25 (月)	②	世界史B (教養)	二年	2年HR ①
	⑤	日本史B	三年	3年HR ①
9/26 (火)	①	現代社会	一年	1年HR ①
	④	世界史B (教養)	二年	2年HR ②
	⑤	世界史B (進学)	二年	2年予備 ①
9/27 (水)	②	世界史B (進学)	二年	2年予備 ②
	④	現代社会	一年	1年HR ②
9/28 (木)	③	世界史B (教養)	二年	2年HR ③
	④	日本史B	三年	3年HR ②
9/29 (金)	①	世界史B (進学)	二年	2年予備 ③
	④	日本史B	三年	3年HR ③
	⑥	現代社会	一年	1年HR ③

日	時限	科目	学年	場所
10/19 (木)	③	世界史B (教養)	二年	2年HR ④
	④	日本史B	三年	3年HR なし
10/20 (金)	①	世界史B (進学)	二年	2年予備 ④
	④	日本史B	三年	3年HR ④
	⑥	現代社会	一年	1年HR ④
10/23 (月)	②	世界史B (教養)	二年	2年HR ⑤
	⑤	日本史B	三年	3年HR ⑤
10/24 (火)	①	現代社会	一年	1年HR ⑤
	④	世界史B (教養)	二年	2年HR ⑥
	⑤	世界史B (進学)	二年	2年予備 ⑤
10/25 (水)	①	日本史B	三年	3年HR ⑥
	②	世界史B (進学)	二年	2年予備 ⑥※アンケ
	④	現代社会	一年	1年HR ⑥※アンケ
10/26 (木)	③	世界史B (教養)	二年	2年HR 通常※アンケ
	④	日本史B	三年	3年HR 通常※アンケ

日	時限	科目	学年	場所
10/31 (火)	①	世界史B (進学)	二年	2年予備 振り返り
	④	日本史B	三年	3年HR 振り返り
	⑥	現代社会	一年	1年HR 振り返り
11/2 (木)	③	世界史B (教養)	二年	2年HR 振り返り
	④	日本史B	三年	3年HR 通常授業

研究授業（平成 29 年 11 月 2 日（木）第 3 限） 対象：2 年進学「世界史 B」

テーマ「主権者教育（長野市長選を通して考える私たちの未来）」

本時案

段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意事項 評価の観点・方法
導入	5分 5分	選挙結果の提示 本校アンケート結果提示	以下を各自で考察 ・選挙結果の違い ・有権者と本校生徒で注目した観点の違い	
展開	30分	グループ毎で話し合い	特に以下の点について考察 ・生徒が注目した政策 ・有権者が注目した政策 ・生徒が選んだ新市長 ・有権者が選んだ新市長 ・長野市在住の生徒 ・市外在住の生徒 ・長野市街地在住の生徒 ・長野市山間地在住の生徒	相手を否定したりしないよう注意する
整理	7分 3分	グループ毎で発表 まとめ		

（４）研究のまとめ

①主体的な学びの姿

当初授業を始めたころは生徒たちの興味関心が低く、「18 歳になっても選挙に行かない」と言っている生徒もいた。だが、授業を進めていくうちに、自身にとって身近な問題だという自覚が出てきて、熱心に取り組む姿が見られるようになった。

今回、授業を進めていって驚いたのは、生徒たちの学習への取り組む姿勢である。選挙に無関心であった生徒たちも両候補者について調べていくうちに、通学費用や子育てなど、自身の身の回りのことが選挙によって変えられるかもしれない、という意識を持つようになっていった。本校のアンケート結果を見ると、地域ごと・学年ごと各生徒が様々な要望を持っており、6 人程度のグループ毎で意見を出し合ったときに互いの考えを聞いてさらに自身の考察を深めている姿があった。そういった点では、生徒にとって身近な長野市長選をテーマに据えて主権者教育に取り組んだことが、生徒の学習意欲を高めることにつながったと感じている。

②マニフェストスイッチ(早稲田大学マニフェスト研究所)の活用

早稲田大学マニフェスト研究所(早大マニ研)が行っているプロジェクトで、「マニフェストスイッチ」を、長野県で初めて導入するとのことで運よく活用させていただくことができた。全国の政治家にマニフェストの共通フォーマットを提案し、わかりやすく見やすい形で政策を公開・利活用するというもので、生徒たちにとって両候補者を比較しやすかったようである。今回は、いきなりマニフェストスイッチを提示することはせず、自分なりの観点で各候補者の違いをまとめさせてから、自身のまとめとスイッチの比較を行った。生徒たちは自分なりに各候補について調査してまとめたが、マニフェストスイッチを見ることで、自分たちのまとめと重なる部分については自信を深めたし、異なった部分についても差異が生まれた理由について考えるなど非常に有益であった。

③信濃毎日新聞紙面への掲載

今回、NIEだけでなく、上記マニフェストスイッチの活用という点で主権者教育でも信濃毎日新聞紙上で再三にわたり掲載していただいた。新聞をほとんど読んでいない、家庭で新聞をとっていない生徒たちから、「親戚に新聞見たよと言われた」という声が何度も聞かれた。これまで、新聞に興味のなかった生徒たちも、自身が紙面に掲載され、高校生として真摯に選挙について学ぶ姿が周囲の大人たちに認められたことによってモチベーションアップにつなげることができた。

(5) 残された課題

- ・今回、生徒たちに話し合いをさせたときに、担当がある程度答えを誘導したり議論の方向を決めてしまった。生徒たちが様々な考えや意見を提案しているなかで、そうした意見を私がかうまく扱えなかった。反省会でも挙がったが、もっと生徒に自由に議論させる時間をとるべきであった。
- ・もっと全校の職員が気軽に新聞を活用できるように工夫してもよかったと思う。NIEというどうしても「面倒だ」とか「やりたい教員がやればいい」というものになりがちだが、担当していない職員でも気軽に新聞を授業に活用できるようにするのが望ましい。

・ある生徒が調べた各候補者についての情報

7、市長選立候補者について

人名 (年齢・生年月日)	加藤久雄 (74) 1942年11月8日	
学歴 (小→中→高→大)	野洲高等学校 → 早稲田大学 政治経済学部	
職歴	本久ホールディングス会長	
家族構成	良は「アミューズ」に参り、古き町理事のマネージャーを務めた人物	
趣味など	ゴルフ 健康	
政策など	<p>前同選同様「野の育ち」をキーワードに掲げ、野の家から先に向ける「ウキベシ」の推進による健康寿命の延伸</p> <p>公的病院などの連携で医療体制を維持し在宅医療の充実を図る</p> <p>子育てから妊娠・出産・育ちまでの切れ目のない支援体制の充実</p> <p>元居中山間地域を育むため産商工連携を進める</p> <p>市営住宅を5年毎に再設けし、文化芸術スポーツに力を入れる</p> <p>市職員の働き方改革をさらに進め、市民の暮らしが良くなる地域を育てる</p> <p>若者の就業・結婚などのモチベーションを上げる</p> <p>女性の活躍の場の拡大、高齢者の活躍で活躍環境を整備</p> <p>府前町としての鬼はかとおてなしの心を育み、観光都市づくりを盛り上げる</p> <p>東部エリアの活性化を牽引する</p>	

①この候補者が最も力を入れている政策は何か、書き出してみよう。

子育ての環境を充実

市営住宅や民間施設を活用し、文化芸術とスポーツに力を入れるを実現
介護、女性の活躍

②マニフェストスイッチを見て、①とどのような違いがあったら。その違いや共通点がなぜ生まれたか考えてみよう。

もっと力を入れる政策
社会保障と教育子育て

③マニフェストスイッチを見て、もう一度この候補者が最も力を入れている政策は何か、書き出してみよう。

社会保障 教育子育て
(医療、介護)
(サキベシ)

自分の考え

野菜が食べにくからり難いから、少しでも簡単にできるため、(サキベシ) 野菜をジュースにして食べる

7、市長選立候補者について

人名 (年齢・生年月日)	土屋龍一郎 (61) 1957年 9月16日	
学歴 (小→中→高→大)	市立中央小学校(卒) → 市立中央中学校(卒) → 市立中央高等学校(卒) → 京都大学	
職歴	株式会社エコーエー元社長	
家族構成	妻1子2人住 3人の家族 (一妻二男)	
趣味など	スポーツ、バンド、読書、芸術鑑賞	
政策など	<p>「長男や未来創造宣言」</p> <p>子どもの育ちの場として相談し、民間企業と連携して子育て支援</p> <p>「教育後継者」を支援する</p> <p>中心市街地の公共施設に市の農産物などを販売する「農の拠点」を設置</p> <p>東部の連携し、五輪開催都市として外国人観光客を呼び込む</p> <p>高齢者社会に好ましい住居老人支援、新しい公共交通サービスを実現</p> <p>高齢者や障害者などによる環境づくり</p> <p>市役所業務を精査、削減に向けての検討会議を設置</p> <p>市営住宅などの公共施設運営は「ヘルカ感」を重視</p> <p>五輪開催都市の公共施設の全面異質化を計画</p>	

①この候補者が最も力を入れている政策は何か、書き出してみよう。

子どもへの優先投資

長男「ランド」

ヘルカ感、次世代を子どもへの有償化、新しい公共交通

②マニフェストスイッチを見て、①とどのような違いがあったら。その違いや共通点がなぜ生まれたか考えてみよう。

教育、子育て、産業政策、税財政、財政再建に力を入れている。

③マニフェストスイッチを見て、もう一度この候補者が最も力を入れている政策は何か、書き出してみよう。

教育、子育て、産業政策、税財政、財政再建



信濃毎日新聞 × 早稲田大マニフェスト研究所

長野市長選 高校生模擬投票

将来や地域のこと、比べて選ぼう

土屋 龍一郎氏 (56) 無所属・新人

長野市生まれ。長野高校、成蹊大を卒業後、都内のアパレルメーカーに就職し、父が営む会社の事業拡大に合わせて帰郷。ケーキ製造、和食店、臨床検査などの事業経営に携わった。1998年に長野青年会議所理事長。2001年には日本青年会議所会頭。12年から今年6月まで、エムウェブなどの運営会社の社長を務めた。趣味は中学時代に始めた音楽活動。座右の銘は「誠実・真摯な姿勢」。長野市東町。



土屋 龍一郎氏

高校生の皆さんへ

今私たちが暮らす社会の公共交通や社会保険は、過去の政策の結果と言えます。市の政策は市民が選挙で選んだ市長や議員が行ってききました。市長選は長野市の未来を決めるために大切なものです。全国の市町村がまちの未来をつくるために知恵比べをしている中、長野市らしい未来が続いていくよう、皆さんの選挙への参加が必要です。長野市を明るく豊かにするため、選挙以外でもあなたにできることをしてほしいと思います。

加藤 久雄氏 (74) 無所属・現職

長野市生まれ。創業から今年300年を迎えた商家の9代目。長野高校、早稲田大を経て、父親が経営する資材販売などの会社に入社。1985年から社長を務め、現在は持ち株会社の相談役。2007年に長野市議会議員、県議、県議連合会会長に就任。13年10月の市長選で初当選した。大学時代にゴルフを始め、今年50回目を迎えた県アマチュア選手権の第1回優勝者。好きな言葉は「ピンチはチャンス」。長野市東町。



加藤 久雄氏

高校生の皆さんへ

50年後、私はもう生きていないでしょうが、高校3年生の皆さんは68歳。日本や地域はどうなっているか。人口の年齢構成も経済活動も、今は変わっているでしょう。その時に向けて今、どうするか。将来に手遅れにならないよう、行うべきことを考える機会の一つが選挙です。「政治に不満はあるか」と言われたら、今は感じにくいかもしれませんが、でも、人任せにしないか。今に、将来が懸かっていると思っしてほしいです。

政治家を目指した理由

長野オリンピックでは長野市の持つ大きな底力を実感しました。あれから20年、まちには停滞感が漂い、人口減少や財政等に暗い影を落としています。私は社会・経済活動の経験やネットワークを生かし、長野市のマンパワーや文化等をフル活用し、多くの方が希望を持って暮らせる活気あふれるまちを取り戻したいと思っています。

地域のありたい姿

長野市は善光寺御開帳を機に発展を遂げ、オリンピックは地元一体となって成功に導くことができました。こうした経緯と経験から、経済的な豊かさがあるだけでなく、夢あふれる心豊かな地域でありたいと思います。人と人のつながり、生きがい、まちへの誇りなど未来へと継ぎつらさし長野市を創造したいと思っています。

解決したい課題

長野市には豊かな風土や歴史、オリンピックの資産や経験が蓄積されています。この底力をさらに醸成し、地域経済を発展させるとともに、文化的にも豊かな長野市にすることが大事です。まちの在り方や方向性、公共施設の有効活用や市のブランドアップなど、未来の世代に引き継いでいくための取り組みを進めます。

◆ 解決するための重要政策

子育て支援 教育支援 少子化対策

子どもは未来の長野市を担う。子どもが健やかに育ち、自分の夢に向かって進んでいける環境を整えるため、「子育てなんでも行先」を設置し、子育て世代との緊密な

連携を図ります。経済的負担軽減や、子どもの多様性を重視した教育等の取り組みを進めていきます。子育て関連11都市を目指し、子育て支援に優先投資します。

芸術・文化振興 観光振興 公共施設マネジメント

長野市は文化・観光資源にあふれ、オリンピックのレガシー(遺産)や経験があります。それらの資産を集約し、さらなるブラッシュアップを通じて長野ブランドを確

立します。公共施設や交通のサービス等を引き上げ、市民と観光客の二層の利便性向上に取り組めます。長野市の素晴らしい魅力をトップセールスで世界に発信します。

行政改革 財政再建 情報公開・広報広聴

長野市は、相次ぐ公共投資による市債の増加や基金の減少等、抜本的な行政改革の転換期にきています。市庁舎内に、人を離れず仕事を離らす「ゆるめものはやめ

る会議」を設置し、事業の浪費を見直し、効率化と収益性の向上を目指します。また市政の「見える化」を推し、市民に分かりやすい形で情報公開に取り組みます。

マニフェストスイッチ



長野市長選



政治家を目指した理由

急激に人口減少が進行する右肩下りの時代の中で、昨日と同じことをしている課題解決はできません。このような時代だからこそ、1期4年間の実績と、これまで40年間の企業経営の中で幾度となく率先垂進してピンチを乗り越えてきた私の出番であると考へており、直面する課題に対し先頭に立ち取り組んでいきます。

地域のありたい姿

私が理想とするまちは、一人一人が幸せを実感できるまちです。そのためには、子育て環境の整備、医療・介護の充実、安定的な職の確保、健康の維持・増進などに取り組み、将来に対する不安がなく、今の市民、そして将来の市民が健康で生き生きと暮らせる、活力ある魅力的なまちを目指していきます。

解決したい課題

子育て環境の整備、医療・介護の充実、安定的な職の確保、健康の維持・増進をはじめ、公共交通の整備、中山間地域と中心市街地の均衡ある発展、災害への備えなど、少子高齢化や人口減少の進行に伴い、課題が山積しています。これら全ての課題について、市民の皆様と危機感を共有しながら解決に向け取り組んでいきます。

◆ 解決するための重要政策

医療政策 防災対策 その他

「守る!」。市民の安全と生活を守ります。生涯を通じて健康で住み慣れた地域で暮らしていけるよう、医療と介護サービスの連携、健全な食生活や運動・スポーツ習

慣の定着などで健康寿命の延伸を図ります。大規模災害に備え、河川の危険箇所の改修や自主防災組織の強化など、防災・減災のための対策を進めます。

子育て支援 教育政策 その他

「育てる!」。人と地域を育てます。結婚から妊娠、出産、育児まで切れ目のない子育て支援に取り組むとともに、仕事と子育ての両方を支援します。将来を担う子ど

もたちのため、家庭の教育力向上・幼児小中高の連携強化、貧困家庭等への学習支援など、家庭・地域・学校・事業所が連携した取り組みを進めます。

雇用創出 女性政策 その他

「つなぐ!」。人・想い・信頼をつなぐ。次の世代へつなげます。企業と若者との就職のマッチングを進めるとともに、企業の働き方改革を促し、魅力ある職の確保に努

めます。結婚、出産等により生活環境が変化しても、社会や地域で女性活躍できるような社会環境を整備します。

マニフェストスイッチの記入ルール

「政策注力分野」(グラフ)は、予算を100ポイント(100%)と仮定した上で、早大マニフェスト研究所が示した10の分

野ごとに何ポイント(何%)を割り振るか、それぞれの候補者に記入してもらった。限られた予算の中で、力を注ぎたい

と考える分野の違いを示す狙い。

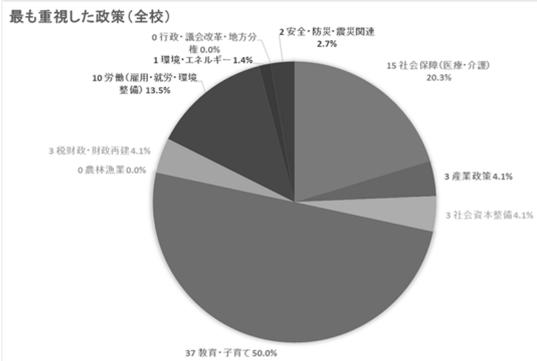
各候補者には「政治家を目指した理由」、地域の将来ビジョンを問う「地域のありたい姿」、地域への問題意識を尋ねる「解決したい課題」をそれぞれ質問。さらに、こうした課題を「解決するための重要政策」を三つ挙げ、同研究所が例

示する約50の施策の中から選んだ3項目ずつを組み合わせて示してもらった。同研究所は、こうした記入ルールに基づく候補者の政策データを「マニフェストスイッチ」として全国で蓄積し、候補者の政策比較や実績の検証、政策本位の選挙の実現につなげようとしている。

早稲田大学マニフェスト研究所 元三重県知事の北川正恭氏(現顧問)らが2004年に設立。15年春の統一地方選から始めた「マニフェストスイッチ」をはじめ、衆院選や参院選での各党の政策比較、全国の市区町村議会の透明度を調べる「議会改革度調査」、首長や議員の経歴、市民らを対象とした「マニフェスト大賞」など、政策本位の政治に向け多岐な取り組みをしている。

・本校の模擬投票の結果とアンケート集計結果

2017年長野市長選挙模擬投票アンケート結果@長野西高校中条校



居住地	人数	割合
長野市市街地	51	68.9%
長野市山間地	8	10.8%
長野以外市街地(須坂市)	4	5.4%
長野以外山間地(小川・麻績など)	11	14.9%

●男女別

性別	政策	人数	割合
男	6 社会保障(医療・介護)	14.6%	
	2 産業政策	4.9%	
	2 社会資本整備	4.9%	
	18 教育・子育て	43.9%	
	2 税財政・財政再建	4.9%	
	9 労働(雇用・就労・環境整備)	22.0%	
	1 環境・エネルギー	2.4%	
	1 行政・議会改革・地方分権	2.4%	
	1 安全・防災・震災関連	2.4%	
	1 その他	2.4%	
女	9 社会保障(医療・介護)	27.3%	
	1 産業政策	3.0%	
	1 社会資本整備	3.0%	
	19 教育・子育て	57.6%	
	1 農林漁業	3.0%	
	1 税財政・財政再建	3.0%	
	1 労働(雇用・就労・環境整備)	3.0%	
	1 環境・エネルギー	3.0%	
	1 行政・議会改革・地方分権	3.0%	
	1 安全・防災・震災関連	3.0%	

●学年別

学年	政策	人数	割合
1年	3 社会保障(医療・介護)	12.5%	
	2 産業政策	8.3%	
	8 教育・子育て	33.3%	
	1 農林漁業	4.2%	
	7 労働(雇用・就労・環境整備)	29.2%	
	1 環境・エネルギー	4.2%	
	1 行政・議会改革・地方分権	4.2%	
	2 安全・防災・震災関連	8.3%	
2年	8 社会保障(医療・介護)	27.6%	
	1 産業政策	3.4%	
	18 教育・子育て	62.1%	
	1 農林漁業	3.4%	
	1 労働(雇用・就労・環境整備)	3.4%	
	1 環境・エネルギー	3.4%	
	1 行政・議会改革・地方分権	3.4%	
	1 安全・防災・震災関連	3.4%	
3年	4 社会保障(医療・介護)	19.0%	
	2 産業政策	9.5%	
	1 社会資本整備	4.8%	
	11 教育・子育て	52.4%	
	1 農林漁業	4.8%	
	1 税財政・財政再建	4.8%	
	2 労働(雇用・就労・環境整備)	9.5%	
	2 環境・エネルギー	9.5%	

●居住地別

居住地	政策	人数	割合
長野市市街地	9 社会保障(医療・介護)	17.6%	
	3 産業政策	5.9%	
	2 社会資本整備	3.9%	
	26 教育・子育て	51.0%	
	2 農林漁業	3.9%	
	2 税財政・財政再建	3.9%	
	8 労働(雇用・就労・環境整備)	15.7%	
	1 環境・エネルギー	2.0%	
長野山間地	2 社会保障(医療・介護)	25.0%	
	2 産業政策	5.0%	
	4 社会資本整備	10.0%	
	4 教育・子育て	10.0%	
	1 農林漁業	2.5%	
	1 税財政・財政再建	2.5%	
	1 労働(雇用・就労・環境整備)	2.5%	
	1 環境・エネルギー	2.5%	
以外市街地	2 社会保障(医療・介護)	50.0%	
	2 産業政策	5.0%	
	1 社会資本整備	2.5%	
	1 教育・子育て	2.5%	
	1 農林漁業	2.5%	
	1 税財政・財政再建	2.5%	
	1 労働(雇用・就労・環境整備)	2.5%	
	1 環境・エネルギー	2.5%	
以外山間地	2 社会保障(医療・介護)	18.2%	
	2 産業政策	4.5%	
	1 社会資本整備	2.25%	
	6 教育・子育て	15.6%	
	1 農林漁業	2.25%	
	1 税財政・財政再建	2.25%	
	1 労働(雇用・就労・環境整備)	2.25%	
	1 環境・エネルギー	2.25%	

・ある生徒の考察

長野市長選挙模擬投票投票結果@長野西高校中条校

立候補者数2 有権者数76人 投票者数74人 投票率97.4%

	加藤久雄	土屋龍一郎	白藤無効票	欠票	合計
3年	11	9	1		21
2年	24	5			29
1年	15	9		2	26
計	50	23	1	2	76

得票率 67.6% 31.1% 1.4%

※実際の投票結果 (NHK選挙情報 開票情報より)

立候補者数2 有権者数315,397人 投票率39.29% 開票時刻

候補者	得票数	得票率
加藤 久雄 元長野県労働組合連合会 元全日本労働組合連合会	63,778	20.23%
土屋 龍一郎 元エムシーエ社社長 元日本青年会議所会員	32,012	10.15%

①実際の選挙結果と違う箇所を書き出してみよう。

また、なぜそうした違いが生まれたか、考えてみよう。

学校の選挙と見比べて、形が投票率に全然違ってくる。学校の選挙は「加藤」が圧倒的と言うこともあって、約100%だった。本校の選挙は、白票の影響もあるが、投票率が少しい。加藤と土屋の投票率の差は、学校の方が大きい。今回選んだのもあって、加藤が有利だと思う。

②別紙のアンケート結果を見て、中条校内で気になる違いがあるか書き出してみよう。また、なぜそうした違いが生まれたか、考えてみよう。

税金の使い道
学校おびて税金の削減がしたい。

③別紙のアンケート結果と新聞記事等を比較して気になる違いがあるか書き出してみよう。また、なぜそうした違いが生まれたか、考えてみよう。

実績、経費、加藤が強いので、加藤を選んだ人が多い。
学校では、医療・福祉より教育・子育ての支援が多かったが、市の選挙では、医療・福祉の方が多かった。なぜか？と思ったのは、今は老人が多くなっていて、その分を少しでも多くするために、医療・福祉に力を入れる人が多いと思う。

子育て支援・働き方…暮らしや進路踏まえ



長野市選管から借りた本物の記載台で、投票用紙に市長選挙候補名を記入する長野西高校中条校の生徒たち＝26日、長野市中条

私たちの選択の理由

3年 鎌川 高樹さん (17) 長野市青木島
アルバイト先で社員の大家さん姿を見る、残業を減らしたり休日を取りやすくしたりするような政策を期待して選んだ。信毎の「マニフェストスイッチ」の特集面で、候補者の政策を比べた。

3年 田中 泉都さん (18) 長野市三本柳
医療や福祉から考えた。来年4月から介護施設で働く。一般に介護の仕事は大変というイメージがあり、辞めてしまう人もいると聞く。設備の工夫などで介護職を希望する人も増えると思う。

3年 篠原 舞羽さん (17) 東長野郡麻績村
社会保障や財政に着目して選んだ。社会保障も大事だが、そこだけにお金をかけては、納税者の負担が大きくなってしまふ。就業しやすい環境を整えて収入を増やせば、負担も減ると思う。

3年 徳武 真耶さん (18) 上水内郡小川村
6人きょうだいを育ててくれた親を見てきて、子育ての大変さが分かる。授業料、部活動の費用、通学の交通費などが大変。子どもからお年寄りまで考えている人を選んで投票した。

2年 吉沢 尚哉さん (17) 長野市丹波島
市民に身近な政策を実現してくれそうな候補を選んだ。例えば雑草の商店街の改善、行くことはあるけれど、若者向けではない気がする。自分から行くことは思わない。活性化を考えたい。

1年 田村 一真さん (16) 小川村
長野市街地は飲食店も多く、東京と同じような「都市」という感覚。隣の中条地区も中山間地なので、産業活性化にも注目したが、自分の経験から考え、健康面で共感できる候補にした。

「政策について考えている生徒が多く、選挙も政治に対する関心が高まっている」と話す。田村君は「選挙は、自分たちが住んでいる地域の未来を左右する大切な機会。自分たちが選んだ候補が、地域を良くするために頑張ってくれることを期待している」と話している。

自分の基準 模擬でも本気

長野西高中条校で「投票」

マニフェストスイッチ



長野市長選

26日長野市選管(仮)主催の模擬投票会が長野西高中条校(長野市、生徒約100人)で開かれた。実際の選挙の機会を、候補者の政策や非を捉え、選挙に即する機会を、子育て支援や働き方改革、暮らしや進路踏まえた投票会を、その旨を伝える「マニフェスト」を、生徒たちが記入した。

「社会生活を営んでいく中で、家族が住むためのアパートやマンションの確保、子育て支援、高齢者の介護など、2020年以降の社会生活に必要となる政策について、候補者の政策や非を捉え、選挙に即する機会を、子育て支援や働き方改革、暮らしや進路踏まえた投票会を、その旨を伝える「マニフェスト」を、生徒たちが記入した。

「社会生活を営んでいく中で、家族が住むためのアパートやマンションの確保、子育て支援、高齢者の介護など、2020年以降の社会生活に必要となる政策について、候補者の政策や非を捉え、選挙に即する機会を、子育て支援や働き方改革、暮らしや進路踏まえた投票会を、その旨を伝える「マニフェスト」を、生徒たちが記入した。

「社会生活を営んでいく中で、家族が住むためのアパートやマンションの確保、子育て支援、高齢者の介護など、2020年以降の社会生活に必要となる政策について、候補者の政策や非を捉え、選挙に即する機会を、子育て支援や働き方改革、暮らしや進路踏まえた投票会を、その旨を伝える「マニフェスト」を、生徒たちが記入した。

「社会生活を営んでいく中で、家族が住むためのアパートやマンションの確保、子育て支援、高齢者の介護など、2020年以降の社会生活に必要となる政策について、候補者の政策や非を捉え、選挙に即する機会を、子育て支援や働き方改革、暮らしや進路踏まえた投票会を、その旨を伝える「マニフェスト」を、生徒たちが記入した。

「社会生活を営んでいく中で、家族が住むためのアパートやマンションの確保、子育て支援、高齢者の介護など、2020年以降の社会生活に必要となる政策について、候補者の政策や非を捉え、選挙に即する機会を、子育て支援や働き方改革、暮らしや進路踏まえた投票会を、その旨を伝える「マニフェスト」を、生徒たちが記入した。

「社会生活を営んでいく中で、家族が住むためのアパートやマンションの確保、子育て支援、高齢者の介護など、2020年以降の社会生活に必要となる政策について、候補者の政策や非を捉え、選挙に即する機会を、子育て支援や働き方改革、暮らしや進路踏まえた投票会を、その旨を伝える「マニフェスト」を、生徒たちが記入した。

←2017年10月27日付 信濃毎日新聞

↓2017年11月29日付 信濃毎日新聞



自分や友人が望む社会は



中条校の模擬投票会と実際の選挙結果を比較し、意見交換を行った生徒

2候補の政策調査/実際の投票結果と比較

「社会生活を営んでいく中で、家族が住むためのアパートやマンションの確保、子育て支援、高齢者の介護など、2020年以降の社会生活に必要となる政策について、候補者の政策や非を捉え、選挙に即する機会を、子育て支援や働き方改革、暮らしや進路踏まえた投票会を、その旨を伝える「マニフェスト」を、生徒たちが記入した。

長野西高中条校(長野市)は、長野市長選(10月29日開票)の模擬投票会を行った。信濃毎日新聞の記者やインターネットの政策を調べ、投票先を決めた。生徒は、候補者の比較や友達の話しを聞いて、同市の現状、そして自分や友人が望む社会について考えた。選挙後、自分たちの投票結果と、実際の投票結果や出口調査結果を比べ、考えを深めた。

本紙特集面や出口調査結果資料に
 本紙特集面や出口調査結果資料に
 本紙特集面や出口調査結果資料に

ここがポイント

信毎NIEアドバイザーから

主張比べやすく 議論活発化

長野西高中条校の田村直洋教諭は主催者として長野市長選の模擬投票を行いました。ポイントは三つです。一つ目は、まず選挙や投票の意義を理解させたことです。18歳選挙権や地方自治などを扱い、その上で長野市の現状や望むことについて意見交換させました。山間地の冬の道路管理、障害者が働ける職場の充実など、高校生が見た課題が挙げられました。市外から通う生徒もいる中、学習課題を共有できました。

二つ目は、候補者についてインターネットから新聞記事へと段階を踏んで調べさせたことです。ネットでは略語や主な主張が分かりました。各候補の政策発表の記事は、行数が同じで政策の一覧表もありました。そして、早稲田大マニフェスト研究所が開発した形式「マニフェストスイッチ」に沿い、政策や主張を数値化するなどした紙面も使いました。記事は、いずれも候補の主張を比べやすいように議論が活発化し、「少子高齢化が進む。教育や医療に力を入れるのは良い」「産業政策を減らすと発展しない」など、理由を挙げて意見を言う様子が見られました。生徒の中に選択基準が育きました。

条校の模擬投票結果を比べ、共通点、相違点やその理由を考えさせたこと。投票者が重視したことを、実際の選挙については出口調査の記事、模擬投票については生徒が答えたアンケートをそれぞれ使って比べながら、重視する政策にもさまざまな立場、考え方があつたことが確かめられました。(信濃毎日新聞社NIEアドバイザー 二木治樹)